



又吉 貢 議員

不法投棄について

現在恩納村で不法投棄が年間何件あるか。対策はどのように行っているか。

答 村民課長（山城 達也）

不法投棄は現在山田2件、南恩納2件、恩納2件、小規模では4件発生しています。

不法投棄は林道沿いや山林、農道沿いの目につきにくい場所等で発生し、関係機関と連携してパトロールや投棄禁止の看板設置等を行ってきましたが、管理の厳しい場所への投棄がほとんどであり、投棄者の特定が困難なことが現状です。今後も不法投棄対策を継続するとともに、試験的に防犯カメラの設置も検討していきたい。

山田グスクについて

教育委員会では1990年から

調査、現在2025年になり35年が経過しております。これまでの成果をお聞きます。

答 社会教育課長（仲村 泰弘）

山田グスクは山田集落の東南に位置する標高90メートルの琉球石灰岩台地に立地する。昭和60年代の文化財調査で、その内容はわからないグスクでありました。1986年から1988年にブスク中心部発掘調査及び測量調査を実施した、グスクは東西約30メートル、南北約160メートルに形成されており、野面積みの石積みやアカサの平場が確認され、平場には建物跡を確認している。その際建物が発掘されてきたことが判明しており、出土した史料には、14から15世紀に流通した諸外国よりもたらされた陶磁器のほかに、日常生活で使われるグスク土器、ほかに長崎県産の石鍋、日本製の武器、武具・鍛冶を示すもの、遊戯具・銭貨などが多く発見されており、交易を中心にグスクが発展したことがわかりました。

グスクの跡地が4,800平米のうち何%ぐらい発掘作業を終えているのか。

答 社会教育課長（仲村 泰弘）

公有地を中心に試掘、発掘を実施させていた。民有地は手が付けられない状況であり、現在の状況は低い調査率だと認識している。

村有地にしたのがどれくらいあるか。

答 社会教育課長（仲村 泰弘）

約80%になります。残り十数筆がまだ私有地であり、公有地化に向けて取り組んでいきたい。

80%ほど村有地化されている、それに合わせて発掘作業できないか。

答 社会教育課長（仲村 泰弘）

教育委員会としては、公有地化に向けて取り組んでいます。人員体制の問題もあり、村内では開発行為が複数件出ており、職員はその対応もしながらグスクの対応もしています。今後人員の増加についても検討しなければいけない。

人員配置を増やして一般会計から出せるのであれば、早期に発掘はできると理解していいか。

答 社会教育課長（仲村 泰弘）

人材が配置できれば発掘に関わる業務を中心にやっていくことも可能です。

一般会計から出して一気に発掘するのいいと思います。村長の意向込みを聞かせてください。

答 村長（長浜 善巳）

今後教育委員会、総務含めて調整しながら検討していきたい。

前兼久漁港駐車場について

ゲート設置はいつ頃になるか、設置したらすぐ料金が発生するのか。

答 農林水産課長（平安名 盛常）

ゲートの設置は令和8年度中を目指しております。令和8年から有料化に向けた取り組みを実施したいと考えています。

前兼久内の個人駐車場の解約の解除も耳にしたのですが、村としてどうしているか。

答 農林水産課長（平安名 盛常）

収入が減ったということに関係者の皆様には深くお詫言ひ上げたい。次年度は有料化に向けた取り組みを進める。

サステナビリティミュージックフェスティバル

効果があつたのか。

答 商工観光課長（城野 正和）

令和6年403人、今年1,695人と広範囲に浸透させるには全然足りないと感じています。集客力と影響力を高めるための新たな取り組みを含め検討していきます。

答 村長（長浜 善巳）

恩納村の観光において、マリネリジャーは重要なコンテンツの一つである。一方で、利用者が集中する真栄田岬は許容量を超える利用者が訪れることによる環境負荷や地域への負荷、また安全面の問題等の弊害が懸念されている。持続可能な観光地域づくりを実現するためには地域のあるべき姿をイメージし、地域の実情に応じた具休策を講じる必要があることが設立の背景となっている。

マリネリジャー分野における外国人インストラクターの在留資格制度に関する実態調査、制度課題の整理については。

答 商工観光課長（城野 正和）

協議会の中には県を含めて国の機関であったり、色々な方が参加している、沖縄県全体で対応が必要と考える、今後の協議の中で取り上げて意見していきたいと思っています。

海域でエコツーリズム推進法を活用する事例は、全国初のモデルにつながる重要な挑戦です。この取り組みを実りのある形としてぜひとも実現していただきたい。



サンゴの村宣言について

各課の取り組みは。

答 企画課長（喜久山 隆）

事業は全部で87事業、行動計画に沿って普及啓発、教育、人材育成、環境保全、産業振興の各分野で関係課が連携し取り組みを進めてきた。

新たな計画を改定する予定はあるか。

答 企画課長（喜久山 隆）

事業の達成率は83%となり、改善すべき事業も明らかになってきている。次期改定に向け、より実効性の高い計画となるように改定を検討していく。

今後、恩納村が「世界一サンゴと人にやさしい村」としてどのような姿を目指していくのか。

恩納村文化情報センターについて

図書館、観光情報フロア、多目的室の改善要望はあがっているか。

答 社会教育課長（仲村 泰弘）

恩納村文化情報センターではトイレ内に設置されている授乳室の設備や環境に対する改善要望、多目的室では、防虫対策、パソコン利用時のコンセント設置の意見がある。

トイレとは別で授乳室を設置する事に関しての見解は。

恩納村エコツーリズム推進協議会について

推進協議会の設立の背景は。